

フローレンス富士の郷

左足切断からの回復！

M様 (69歳 要介護3)

平成29年6月13日 施設入居

左足に糖尿病性足壊疽があり、入居前から感染により何度か入退院を繰り返していた。主治医からは、切断を進められていたが、本人はその決断ができないまま入居に至った。

入居当時は、意欲もなく無表情。職員が話しても頷きはするが回答はほとんどなし。トイレと食事をするとき以外は、声をかけても居室から出てこず、ずっとベッド上で過ごしていた。

入居時の左足の壊疽の状態は、第2～5趾、第4趾基部～足背まで黒色壊死の状態。

施設看護師と訪問看護によって、毎日処置を実施し感染予防をしながら本人にとって何が一番良いか一緒に考える毎日…



入居から一か月が経過する頃、本人から“このままでは良い方向に行かない”と切断することを決意。

平成29年9月11日 下肢切断手術

手術自体は順調で、傷口の経過も良好と判断され、10月6日に退院される。

しかし、片足を失ってしまったことでかなり落ち込んでいる様子。職員の声掛けに対しても、あまり反応がなかった。

退院時の担当者会議 [平成29年10月6日実施]

まずは、片足の生活に慣れること。

それと同時に、片足を失ったことによるメンタル面のケアをどうするか。

施設での対応



①バルーンカテーテル留置にて退院されたため、排尿についてはカテーテル管理。
排便については施設でフォローしながら自力でトイレに行く。
→大変な時はコールで呼ぶことで様子を見る。

②少しずつ ベッド上の時間を減らしていけないか。

→本人あまり乗り気ではない反応

→本人にやりたいこと・興味があることを聞き、楽しみながら動きを増やしていけるように働きかける。

①

移乗の際にバルーンバックが邪魔にならないように、首から下げられるようなバルーンバッグ用の袋を準備。

職員が手作りしました♪



②

・まずは、M様の要望を聞き出す。



何がしたい？何が好き？？

・機会があるなら外出したい。

デイサービスの利用を、平成30年1月より開始。

・ラーメンを食べたい。

デイサービスでの昼食にラーメンが出ることもあるらしい。

・犬が好き。

職員が自宅で飼っている犬を施設に連れてくることを約束。

・少しずつ、無理なく起きられる様、起きるためだけでなく好きなコーヒーやおやつを食べるために起きるといった目的にすり替えて、まずは起きる時間を増やし、体力の向上を図る。



現在では、片足での生活にも慣れ、一人で安全に移乗ができています。食事はもちろん、10時のコーヒータイムやおやつ、体操にも自分から出て来てくれるようになりました。また、デイサービスにも週1回から通い始め、さっそくラーメンが昼食に出たらしく、満足されている様子。着ていく服を自ら整理しながら選ぶ様子も見られます。



意欲的になったこと以上に、明るい表情を見せてくれるようになったことが一番の変化ではないでしょうか。

職員が飼っている犬を施設へ連れてくると、今までにない嬉しそうな表情が！



機能訓練強化型
住宅型有料老人ホーム
コロレンス富士の郷
0544-58-9605

施設見学随時受付中
☆毎週土曜・日曜も施設見学会開催中☆

富士の郷の日常

